

# 新梢伸長抑制剤による 強樹勢ブドウの摘心作業の省力化

【背景・目的・成果】ブドウの短梢せんで栽培は、結実管理が効率的になる反面、樹勢が強くなりやすく、新梢の摘心作業に多くの労力が必要です。そこで、強樹勢の「シャインマスカット」や「ピオーネ」に対して、新梢伸長抑制剤メピコートクロリド液剤の効果的な使用法を検討したところ、開花前散布により新梢伸長が強く抑制され、摘心作業時間が20%以上減少し、着粒数がやや増加しました。

新梢管理が遅れると・・・

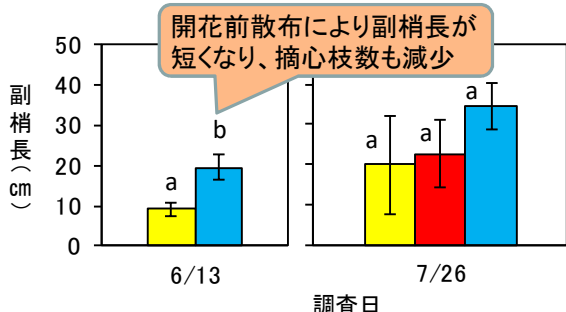
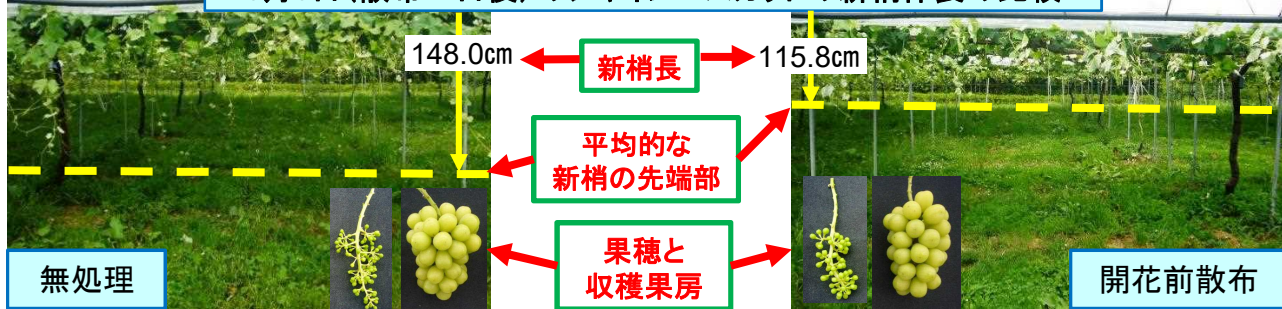


棚下の日照不足 着色不良や生理障害多発

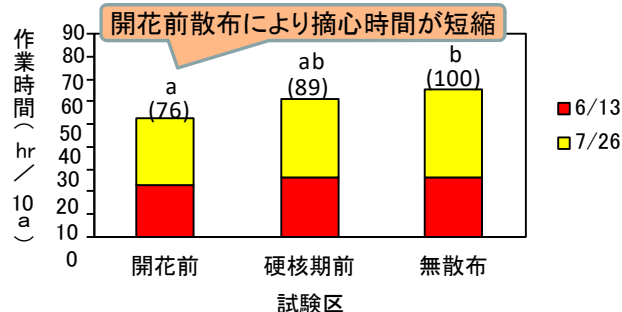
## 効果的な使用法

【散布時期】新梢の展葉7～11葉期（開花始期まで）  
 【希釈倍数】シャインマスカット：1000～2000倍  
 ピオーネ：500～800倍、散布量は各100～150ℓ/10a  
 【使用対象】新梢伸長の旺盛な樹（展葉8～9葉期に長さ80cm以上）  
 ※満開10～20日後（硬核期前）にも使用可能ですが、開花前の方が効果は高いです。また、新梢伸長が旺盛でない樹、枝では、散布により伸長が過度に抑制され、品質が低下する可能性があります。

## 6月6日（散布20日後）のシャインマスカットの副梢伸長の比較



メピコートクロリド液剤1000倍液の散布時期と副梢長（2018）



メピコートクロリド液剤の散布時期と摘心作業時間（2018）

シャインマスカット、縦棒は標準誤差、6/13はt検定により、7/26はTukey-Kramerの多重検定により棒上の異符号間では5%水準で有意差あり  
 シャインマスカット、棒上の異符号間ではTukey-Kramerの多重検定により5%水準で有意差あり、( )は無散布の総作業時間を100とした数値

## メピコートクロリド液剤の散布時期とシャインマスカットの果実品質（2018）

散布時期	果房重 (g)	果粒重 (g)	着粒数 (粒/房)	果皮色 (カラーチャート <sup>2</sup> )	糖度 (Brix)	酸含量 (%)	縮果症 (粒/房)	房じまり <sup>3</sup>
開花前	565.7 a	12.9 ab	44.2 a	2.9 a	20.4 a	0.21 a	0.3 a	0.7 a
硬核期前	509.1 a	12.1 b	43.0 ab	2.9 a	20.3 a	0.23 a	0.1 a	0.4 a
無散布	591.2 a	14.5 a	40.7 b	3.2 a	21.2 a	0.22 a	0.1 a	1.4 a

開花前散布で着粒数がやや増加した以外に果実品質には差はなし

<sup>2</sup>シャインマスカット用（山梨県総合理工学研究機構）

<sup>3</sup>房上部の果軸周囲の果粒の詰まり程度、良：0～不良：3

\*Tukey-Kramerの多重検定により異符号間に5%水準で有意差あり

【技術の活用】薬剤費は10a当たり6,200円（「シャインマスカット」）～7,800円（「ピオーネ」）を要します。また、「藤稔」でも同様の省力効果を認めています。

